

## Ⅰ-1 生きる力の基礎を育む幼児教育の推進

### 現状と課題

幼児期の教育は、生涯にわたる人格形成の基礎を培う重要なものであり、幼稚園・保育園がそれぞれの持ち味を生かしながら、生活や学習に必要な資質・能力が育まれるよう幼児教育の充実を図っていくことが求められています。

そのため、幼児期から児童期の教育活動のつながりを見通し創造的な思考や主体的な生活態度などの基礎を育み、円滑に小学校教育へ移行できるよう「幼保小の架け橋プログラム」\*などを活用しながら幼稚園・小学校の連携を図ることが重要になっています。

一方、少子化の流れを受け、園児減少が進む中、幼児教育で重要な集団活動による教育効果を十分に確保することが課題となっています。子育てに関する多様な悩みや不安を抱える保護者に対して、子育て支援センターを地域の子育て支援の拠点として活用しながら、安心して子育てのできる環境を整備していくことが必要となっています。

### 施策の方向性

- 市立幼稚園を再編し、質の高い幼児教育を推進します。
- 幼児の発達や学びの連続性を踏まえた幼児教育の充実を図り、小学校とのなめらかな接続\*を推進します。
- 深谷東子育て支援センターなどを拠点とした、未就学児に対しての子育て支援を推進します。

### 成果指標

指標名	現状値 (令和3年度)	目標値 (令和9年度)
幼稚園教諭に対して行う研修の回数	10回	12回

## 主な取組

### ■ 質の高い幼児教育の推進

- ◇一定規模の集団活動を実施できるよう、市立幼稚園の再編及び施設整備を進めます。
- ◇幼稚園教育要領の内容の定着を図るため幼稚園において、幼児の実態などを踏まえた適切な教育課程を編成し、家庭や地域と連携・協力しつつ幼児教育を推進します。
- ◇幼稚園において運動遊びや英語遊びを充実させ、幼児の体力向上や多様性を育てていきます。
- ◇3歳児学級に複数の職員を配置する等、チームによる指導体制を整備し、職員体制を充実させます。また、教諭の資質向上に向けた研修を充実させ、研修機会を十分に確保します。
- ◇幼稚園業務のICT化を推進し、保護者の利便性向上及び教諭の負担軽減を図ります。

### ■ 特別支援教育等の体制整備

- ◇特別な支援を要する幼児への支援、子育て困難家庭への支援、深谷市立教育研究所その他の関係機関との連携等、市立幼稚園として求められる役割を果たすための体制を整備します。

### ■ 幼児教育と小・中学校教育との連携の推進

- ◇「幼保小の架け橋プログラム」などの活用による小学校へのなめらかな接続、家庭や関係機関との連携による子育ての目安「3つのめばえ」\*や深谷の子「6つの誓い」\*などの取組を推進します。

### ■ 深谷東子育て支援センターを活用した子育て支援の充実

- ◇子育てに不安や悩みを持つ保護者を支援するため、地域の子育て支援の拠点として、幼稚園の教育機能や施設を活用した事業を推進します。
- ◇市立幼稚園において、「ふれあいサークル」を実施し、地域の未就園児を持つ保護者に幼児教育を体験してもらうなど、幼児期の教育に関する支援を推進します。

## Ⅰ-2 未来を切り拓くための確かな学力の育成

### 現状と課題

変化の激しい現代社会においては、生涯にわたり学習する基盤が培われるよう、基礎的な知識及び技能を習得させるとともに、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力その他の能力を育み、主体的に学習に取り組む態度を養うことが求められています。

本市の子供たちの学力について全国学力・学習状況調査（令和3年度）の結果を分析すると、懸案となっている無回答率が全国平均よりも低くなり、子供たちが自分の考えを答えられているものの、より一層の学力向上が求められ、そのための取組が必要です。

特に思考力・判断力・表現力などには課題があり、習得した知識・技能を活用する学習を充実させていく必要があります。

### 施策の方向性

- 学習指導要領\*の円滑な実施に努め、児童生徒に確かな学力を身に付けさせます。
- 児童生徒の学習状況を的確に把握し、学校の課題改善に向けた取組を支援します。
- 全ての子供たちの可能性を引き出す、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を充実させ、「令和の日本型学校教育」を推進します。

### 成果指標

指標名		現状値 (令和3年度)	目標値 (令和9年度)
全国学力・学習状況調査の正答率において、県平均を上回った学校の割合	小学校	34.2%	58.0%
	中学校	30.0%	55.0%

## 主な取組

### ■ 「青淵学びの郷づくり\*」の推進

◇郷土の偉人・渋沢栄一\*の心を受け継ぎ、子供たちの夢や志を実現できるよう、地域との連携によるステップアップレッスン\*などで知識・技能の確かな定着を図るとともに、伸びようとする子をさらに伸ばす、こころざし深谷科学塾・国際塾\*などの取組で活用の力を育成します。

### ■ 教科などの指導内容・指導方法の工夫・改善

◇学習指導要領を円滑に実施し、子供たちの学習意欲を高め、確かな学力を確実に身に付けさせます。そのために学校訪問や研修会において、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実し、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を推進します。また、授業の具体的な型を示した深谷市授業スタンダード\*の徹底による、指導力の向上を図るとともに、指導内容・指導方法についても工夫・改善します。

### ■ 学習状況の調査結果などの分析と活用の推進

◇各小・中学校において、国、県、市の学習状況の調査結果やNRT\*・NINO\*の結果を自校の結果と比較・分析し、課題の把握と指導改善に活用します。

◇興味や関心を高め、目標をもって学習に取り組める生徒を育成するために、検定や市独自の認定テスト（深谷市チャレンジ\*）などを実施します。

### ■ きめ細やかで質の高い指導の充実

◇児童生徒一人一人に応じたきめ細やかな指導のため、少人数指導を充実するとともに、小学校でアシスタントティーチャー\*や専科指導教員の配置、中学校で中学校学力向上支援員の配置などを通して、学力向上を推進します。

### ■ 教育研究所の資源活用

◇実践的指導力を培う研修を実施し、学校と連携を図って、教員の指導力の向上を図ります。

## Ⅰ-3 郷土深谷を愛し国際性を育む教育の推進

### 現状と課題

グローバル化\*が進展し、異なる考え方や価値観を持つ人々との接点が増える中で、国際社会を主体的に生きる日本人を育成するためには、英語力・コミュニケーション能力を高め、国際的な視野や多様な価値観を受容できる力を育むことが求められています。

さらに、我が国や郷土の伝統と文化について理解を深めるとともに、多様な価値観を受容し、それらを尊重する態度を育み、日本人としての自覚を持ち、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養う教育が重要です。

### 施策の方向性

- 伝統と文化を尊重し、日本人としての誇りをもち、我が国と郷土深谷を愛する態度を養います。
- 国際理解教育を推進するとともに、小学校の外国語の授業を充実させるため、地域人材を活用するなど、質の高い外国語教育を推進します。また、中学校の英語教育の充実を図ります。
- 帰国・外国人児童生徒などへの日本語指導など、学校や社会生活への適応を図るために必要な支援を行います。

### 成果指標

指標名	現状値 (令和3年度)	目標値 (令和9年度)
英語検定3級以上取得率(中学3年生)	43.6%	50.0%

## 主な取組

### ■ 伝統と文化を尊重する教育の推進

- ◇ 社会に開かれた教育課程の観点に立ち、地域の人と協働し、我が国や郷土深谷の伝統と文化について体験的な学びの場を設け、郷土を愛する心とともに、日本人としての誇りを養います。
- ◇ 「渋沢栄一翁こころざし読本\*」を活用し、ふるさとを誇りに思う心を育み、グローバル社会に生きる深谷の子を育成します。

### ■ 国際性を育む教育の推進

- ◇ 幼稚園、小・中学校にALT\*などを配置し、学びやふれあいを通じて、子供たちの国際性を育みます。
- ◇ JICA（国際協力機構）と連携し、体験学習や学習発表会を推進して、世界の平和や発展に寄与する態度を養います。

### ■ 小学校段階からの質の高い外国語教育の推進

- ◇ 小学校では、英語が堪能な地域人材を活用するなど、質の高い外国語の授業を行い、コミュニケーション能力を高める教育を推進します。
- ◇ 中学校では、英語検定や深谷市チャレンジ\*（英語検定に準ずる認定テスト）を活用して、学習意欲の向上を図ります。
- ◇ 小学校の外国語活動・外国語及び中学校の英語の授業の質を高めるため、教員研修を充実し、教員の指導力の向上を図ります。

### ■ 帰国・外国人児童生徒などへの教育の充実

- ◇ 帰国・外国人児童生徒などへの日本語指導を充実させ、学校生活や社会生活への適応を図るため、日本語指導員を配置します。また、外国人児童生徒の就学相談を行います。

## Ⅰ-4 時代の変化に対応する教育の推進

### 現状と課題

AI\*やビッグデータ\*、IoT\*などに代表される、科学技術や高度情報化の目覚ましい進展は、便利な生活を実現する一方で、産業構造の変化をもたらすとともに、私たちの生活様式を大きく変え、環境問題や情報が氾濫する社会での新たな課題を生じさせています。

こうした新しい課題に対応できるよう、文部科学省はGIGAスクール構想\*の実現に向けてStuDX\*を示し、さまざまな繋がりの中でICT\*を適切に活用できる情報活用能力の育成や、これからの学びの姿を示しました。また、持続可能な社会を目指すSDGs\*の実現に向け、社会的課題に対応するには、環境教育や福祉教育の充実とともに、科学技術を担う人材育成などの重要性が高まっています。

これからの変化の激しい社会を生き抜く子供たちには、情報を適切に活用し、直面する様々な課題に向き合い、自ら積極的に解決しようとする意欲や態度を育む教育が必要とされており、ICT機器を適切に活用するなどして、個別最適な学び、協働的な学びを一体的に充実させ推進していくことが求められています。

### 施策の方向性

- 子供たちの科学技術に関する興味・関心を高め、豊かな科学的素養や思考力を育成します。
- ICT機器を適切に活用し、児童生徒の発達段階に応じた情報活用能力やプログラミング的思考\*を育成するとともに、情報モラルを醸成します。併せて、多様な人たちと協働しながら学ぶことで主体的・対話的で深い学びの実現を目指します。
- SDGsをはじめ、新たな社会的課題等に対応できる人材の育成に向けた教育を推進します。

### 成果指標

指標名		現状値 (令和3年度)	目標値 (令和9年度)
授業中にICTを活用して指導することができる教員の割合	小学校	92.2%	100%
	中学校	76.8%	100%



## 主な取組

### ■ 科学技術教育の推進

- ◇子供たちの知的好奇心や探究心を喚起し、科学を学ぶ楽しさが実感できるよう観察・実験を充実させます。
- ◇科学館や大学、地元企業などと連携した体験学習を推進し、子供の興味・関心を高めます。

### ■ 情報教育の推進

- ◇イノベーター職員やICT支援員を活用するなどし、ICT機器を効果的に活用した授業を行うための体制を推進します。
- ◇学習内容への興味・関心を高めたり、学習内容を分かりやすく提示したりするために、国のGIGAスクール構想により整備した1人1台端末などのICT機器を効果的に活用します。
- ◇子供達がICT機器を用いて、個々の特性に応じて自ら学習を進めたり、他者と協働して学んだりすることができるように、情報の収集・判断・処理・発信などの情報活用能力を育成します。
- ◇コンピュータに指示を与える体験的な学びを通して、プログラミング的思考を育む教育を推進します。
- ◇情報モラル教育を充実させ、情報社会で適正に活動するための基となる考え方や態度を育みます。

### ■ 新たな社会的課題等に対応する教育の充実

- ◇教育活動の様々な場面において、一人一人の児童生徒がSDGsについての理解や認識を深め、実践していくための取組を進めていきます。
- ◇環境保全に積極的に関わる態度を養うため、身近なリサイクル活動や、各教科の学習などを通して、身の回りのことから地球的規模に至るまでの環境問題に対する意識の高揚を図る教育を推進します。
- ◇ボランティアや福祉に関する積極的な態度を養うとともに、税や法に関する教育、健全な消費者教育などを推進します。



## Ⅰ-5 夢を育み志を実現するキャリア教育の推進

### 現状と課題

Society5.0\*を目指す大きな社会の変革期の中、子供たちには、社会的・職業的に自立し、社会の中で自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現するための力を育む教育の充実が求められています。

また、経済的要因に関わらず修学を支援する環境の整備が重要です。

### 施策の方向性

- 小学校の段階から教育活動全体を通じ、組織的・系統的なキャリア教育\*を推進します。
- 将来働くことについて意欲や関心が持てるように、地域・企業などと一体となって、職場での体験活動の充実を図ります。
- 経済的な支援を通じ、意欲と能力のある者が安心して学ぶことができる環境づくりを推進します。

### 成果指標

指標名		現状値 (令和3年度)	目標値 (令和9年度)
「将来の夢や目標を持っている」児童生徒の割合	小学校	85.5%	93.0%
	中学校	79.7%	83.0%

## 主な取組

### ■ 発達段階に応じたキャリア教育の充実

- ◇児童生徒が明確な目的意識を持って主体的に自己の進路を選択できる力を身に付けられるよう、小学校での職業に触れる体験や中学校での職場体験を推進します。
- ◇自らの学習状況やキャリア形成を見通したり、振り返ったりするとともに、主体的に学びに向かう力を育み、自己実現が図れるよう、「ふるさとキャリアパスポート\*」の取組を充実します。
- ◇生徒がより適切で主体的な進路選択を実現できるよう、進路指導・進路相談を充実します。
- ◇中学校において、夢を持ち、志高く生きるための立志式などを実施します。



立志式

### ■ 中・高の連携によるキャリア教育の推進

- ◇高等学校の教員による出前授業や、中学生の高等学校における体験授業を推進します。
- ◇高校の中途退学者対応や、より良い進路選択ができるように、中学校と高等学校間で情報を共有し、中高連携に取り組みます。「中高連絡協議会」を開催し、熊谷市、深谷市、寄居町内の高等学校と、中学校とが緊密に情報交換を行います。

### ■ 教育における経済的支援の充実

- ◇進学の実意と能力を有しながら経済的理由で修学が困難な高校生に対して、奨学資金の給付を行います。
- ◇大学などへの入学に必要な資金の融資に対し、返済利子の一部を助成します。

## Ⅰ-6 多様なニーズに応じた特別支援教育の推進

### 現状と課題

障害のある子供とない子供が、互いの違いを認め、共に支え合う共生社会の形成が求められています。

特別支援学級\*や特別支援学校で学ぶ子供たちに加え、通常の学級の中にも特別な教育的支援を必要とする子供たちが在籍しています。そのため、子供たち一人一人の実態や教育的ニーズをよりの確に把握し、早期から学習面や行動面の支援を行っていく必要があります。また、地域における教育・医療・福祉などの関係機関の連携強化や、教員の特別支援教育についての専門性を向上させるとともに、学校における支援体制の充実が求められます。

### 施策の方向性

- 各学校において、特別な教育的支援が必要な児童生徒に対する就学相談・教育相談体制を充実します。
- 校種間のなめらかな接続\*や学年間の引継ぎが図れるよう、3年間をとおした個別の教育支援計画や年度内における個別の指導計画の作成に努めます。
- 一人一人の教育的ニーズを把握し、通常学級や通級指導教室・特別支援学級に加え、特別支援学校との連携を含めた支援体制の充実を図ります。

### 成果指標

指標名	現状値 (令和3年度)	目標値 (令和9年度)
通常の学級に在籍する障害のある児童生徒の個別の指導計画の作成率	82.5%	95.0%

## 主な取組

### ■ 特別支援教育体制の充実

- ◇ 特別支援教育コーディネーター\*の専門性の向上や計画的な校内委員会の実施、通常の学級に在籍する障害のある子供の個別の指導計画作成など、特別支援教育体制の充実を図ります。
- ◇ 教育研究所を核として、教育福祉連携推進会議など他機関との連携強化を図ります。
- ◇ 教育研究所を核として、学校と関係機関との緊密な連携により、障害のある子供の学習・生活支援を充実します。
- ◇ 県教育委員会と連携しながら、通級指導教室の増設などを行い、障害のある子供の教育的ニーズに応え、幅広く学びの場を整えます。



深谷市立教育研究所

### ■ 就学支援・相談の充実

- ◇ 幼稚園・保育園・小学校・中学校へ巡回相談を実施し、一人一人の障害を的確に把握し、個に応じた適正な就学支援・就学相談の充実に努めます。
- ◇ 児童生徒に早期から適切な教育的対応ができるよう、幼稚園、保育園、小学校及び中学校におけるなめらかな接続と関係機関との連携を推進します。

### ■ 特別支援教育の視点に立った指導の充実

- ◇ 特別支援学校のセンター的機能の活用、研修の充実、インクルーシブ支援員\*や特別支援補助員の活用、発達支援アドバイザーによる学校訪問を通して一人一人の教育的ニーズに応じた指導の充実に努めます。また、支援籍\*学習や交流及び共同学習を推進します。



研修会